

古典入門

歴史的仮名遣い

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。

これは、みなさんもよく知っているかぐや姫の物語、『竹取物語』のはじまりの部分です。

しかし、現代とは読み方が違い、「いふ者」の部分はいふもの」と読みます。古典の文章では、仮名遣いが現代とは違います。これを「歴史的仮名遣い」といいます。

では、なぜ古典の仮名遣いは現代の仮名遣いと違うのでしょうか。

平安時代の中頃までは仮名遣いと発音が一致していましたが、その後発音が変化して仮名による表記の仕方でも乱れてきました。

江戸時代になって、国学者（日本の歴史や文化を研究する人）契沖が、平安時代中期までの用法を基準に仮名と発音を整理しました。これが歴史的仮名遣いなのです。

読み方の原則

② 語頭以外の は・ひ・ふ・へ・
ほ・む↓わ・い・う・え・お・ん

あはれ・あわれ

いふ・いう (言う)

まへ・まえ (前)

にほひ・におい (匂い)

やむごとなき・なんごとなき

③くわ・ぐわ↓か・が

くわし・・かし（菓子）

いちぐわつ・・いちがつ（一月）

④ア段＋ふ・う↓才段＋う

まうす・・もうす (申す)

あふぎ・・おうぎ (扇)

⑤イ段＋ふ・う↓イ段＋ゆう (ゆう)

いふ・・いう

うつくしう・・うつくしゅう

かしふ・・かしゅう (歌集)

⑥エ段＋ふ・う↓イ段＋よう (よう)

てうし・・ちようし (調子)

けふ・・きよう (今日)

てふてふ・・ちようちよう (蝶々)

①く⑤を「例」と同じ形式で現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで書いてみよう。

「例」よろづの事に使ひけり↓よ
ずのことにつかひけり

ろ

①思ひけるやうは↓

②食はねば↓

③歸らむ↓

④通り給ふ↓

⑤取りて伝へむ↓

答え

- ① おもひけるようは
- ② くわねば
- ③ かえらん
- ④ とおりたもう
- ⑤ とりてつたえん